

令和4年度自己評価・保護者アンケート・学校関係者評価

認定こども園あくね園

I 経営の基盤

- (1) 子どもは無数の可能性を秘め、一人ひとり個性がある。子どもの人格を尊重し、それぞれの長所や個性を見つけそれを伸ばすように絶えず努力する。
- (2) 職員対子ども、職員相互、職員対保護者の望ましい人間関係を築きながら教育にあたる。特に家庭における育児と園における教育保育の相互補完の教育を目指すとともに、職員一体となって組織としての機能を果たすようにする。また幼保一体となった認定こども園のよさを活かすと共に預かり保育・延長保育・一時的預かり保育の充実に努める。
- (3) 専門職として誇りと自覚を持ち、自主的・継続的に励み、日々の教育(保育)活動に全力を傾注する。園内研修の充実に努め、指導力の向上を図るようにする。
- (4) 子どもは環境によって変容する。自然的環境、社会的環境、人的環境の整備を継続推進し、遊びや直接体験を中心とした生活を通してたくましく生き抜く力の芽生えを培う。

II 教育保育目標

教育保育目標

〈たくましい子 やさしい子 かしこい子〉

子ども一人一人が大切にされているとの実感をもとに心身ともにたくましく、心豊かで、自分で考え自ら進んで行動しようとする芽生えを育てる。

- ◎ 健全な心と体を育て、健康で安全な生活に必要な習慣や態度を養う。
- ◎ 思いやりの心や自立心を培い、社会生活における望ましい習慣や態度と道徳性の芽生えを育てる。
- ◎ 豊かな感性と表現力を培い、創造性を引き出す。
- ◎ 身近な環境への興味や好奇心を育て、探求する心や考える力の基礎を養い、幼児期にふさわしい知的発達を促す。
- ◎ 言葉への興味や関心を育て、分かりやすく話すことやしっかり聞き取ろうとする態度と言葉に対する感覚を養う。

0歳から就学前までの一体的な教育保育活動の推進

めざす園像・めざす子ども像・めざす保育者像

<p>「めざす園像」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 乳幼児が園生活が楽しい ○ 信頼される園 ○ 家庭や地域と連携し地域に開かれた園 ○ 保育者と保護者、保護者同士がつながり育ち合う園 	<p>「めざす子ども像」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく元気で最後までがんばる子 ○ みんなと仲良く遊び思いやりのある子 ○ よく聞きいっしょうけぬめい考える子 	<p>「めざす保育者像」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもへの深い愛情をもち一人一人を大事にしよき ○ 出す保育者な姿勢をもち研修に励み使命感と情熱をもって教 ○ 育保育に取り組む保育者 ○ 明るく健康で家庭や地域と連携し信頼される保育者
--	--	---

子どもが「先生大好き！友達っていいなあ！あくね園って楽しい！」と実感する園！

III 重点目標と計画

安園の建学の精神と幼保連携型認定こども園の教育保育要領をもとに、発達段階を考慮した教育保育の実践を目指す。

IV 評価目標の達成状況及び取り組み状況

評価 A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった

評価項目	評価	取り組み状況
1 深い児童理解に努め、「やりたくなる活動」の実践を図る	B	年中から年中にかけて子どもの考えを生かす場面を意図的に取り入れようとして、子ども主体の教育保育の展開がなされつつある。
2 「つなぐ」「ひろがる」ことを意識した計画作成、実践に努める。	C	一つ一つの活動が単発的でなく、発達段階や経験等によりテーマを決めて、計画を作成し保育者同士が語り合い実践する姿が見られるようになってきた。子どもたちも意欲的に取り組んでいる。
3 今日的な課題解決に実践的な園内研修の推進に努める。	B	毎月園内研修を行い、実践を持ち寄り、研修会参加の内容を報告したりしている。保育者同士の討議の時間を設け、新しい教育保育の在り方について学ぼうとする気風が着られつつある。

職員自己評価結果

令和4年12月21日調査 回答数22人

項目	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	分からない	
1 教育方針や目標等をもとに教育保育活動の計画(月案、週案、日案)を作成している。	7	5		6	4	
2 子どもの経験や発達段階に応じて日々の活動やしつけ等を適切に行っている。	10	11			1	
3 「5領域」や「幼児教育の終わりまでの育てほしい10の姿」を意識して計画を作成し、実践している。	5	10	1	2	2	
4 子どもの一人一人の願いや実態、興味、したいことを生かしながら教育保育を行っている。	9	12			1	
5 遊びが学びであるとの意識を大事に様々な体験活動の場を積極的に取り入れている。	9	11	1		1	
6 子どもの発想や自発的な活動を引き出し、ねらいが達成できるような用具や材料を準備している。	3	15	2	2		
7 人間は皆違うことを自覚し、それぞれの仕事で職員同士で協力し合い助け合う心がけている。	13	9				
8 先生方同士で環境構成や活動内容、分担等について話し合い情報を共有している。	10	11	1			
9 研修で学んだことを園運営や教育保育等に生かし、職員連絡会等で共通理解したことを確実に実践している。	9	11	1	1		
10 子どもたち一人一人の人権を尊重し、適切な支援を行っている。	12	10				
11 子どもたちが意欲的に工夫しながら活動できるような時間を確保している。	10	11			1	
12 子どもの年齢や発達段階等に応じて言葉遣いやルール、物事の善し悪しに気づくような指導支援を行っている。	6	15			1	
13 給食やおやつ時間は子ども一人一人の実態に応じた支援を行っている。	10	10	2			
14 話を聞くことと思いきり体を動かす活動等メリハリのある教育保育を行っている。	11	10	1			
15 子どもの緊張や不安をなくすために、子どもの考えや行動を温かい態度で受け止め、一人一人に接している。	12	9	1			
16 子どもといっしょに活動できることを喜び、子どもの成長を心から楽しんでいる。	10	12				
17 特別な配慮や支援を要する子どもに適切な支援を行っている。	9	13				
18 子どもの命を守るために安全指導や遊具等の安全対策に努めている。	10	11	1			
19 職員自らの健康管理に努めるとともに子どもの健康観察や消毒、掃除等を行っている。	14	8				
20 園での様子を送迎時の連絡や週報、連絡帳等で家庭との連携を図っている。	11	9	1		1	
21 子どもの怪我や子ども同士のトラブルなどについて適切に対応している。	12	10				
22 保護者が気軽に話したり、相談したりできるような雰囲気づくりに努めている。	10	9	2		1	
23 子どもや保護者のことを園の外で話題にしていない。	17	5				
24 保護者や来園者等々に誠意を込めた接遇(電話応対、あいさつなど)に心がけている。	18	4				

令和4年度保護者アンケート結果

令和5年1月6日～17日

回収数 69

項 目	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない
1 週報や園だより、ホームページ等で園の教育保育方針や保育活動等を分かりやすく伝えている。	4 3 62. 3%	2 4 34. 8%	2 2. 9%	%
2 子どもたちの発達段階や興味・関心に応じた教育保育がなされている。	5 0 72. 5	1 6 23. 2	3 4. 3	
3 保育者は子どもたち一人一人の特性をよく理解し、支援をしてきている。	4 8 69. 6	1 8 26. 2	3 4. 3	
4 発達段階や年齢に応じた様々な体験活動を取り入れ、メリハリのある教育・保育を行っている。	5 1 73. 9	1 5 21. 7	3 4. 3	
5 子どもの命を守るために安全に配慮している。	5 2 75. 4	1 4 20. 3	3 4. 3	
6 健康観察や感染症予防に取り組み、子どもたちの健康を守る配慮をしている。	4 8 69. 6	1 9 27. 5	2 2. 9	
7 保育者は保護者の相談に誠意をもって対応してくれ、相談しやすい雰囲気である	4 6 66. 7	1 7 24. 6	6 8. 7	
8 保育者は保護者の意見や要望等に適切に対応してくれる。	4 1 59. 5	2 3 33. 3	5 7. 2	
9 子どもは毎朝あくね園に行くのを楽しみにしている。	3 8 55. 2	2 3 33. 3	7 10. 7	1 1. 4
10 子どもはこの学年になり成長したと感じる。	5 6 81. 2	1 3 28. 8		
11 電話対応、あいさつ等適切である。	5 8 84. 1	1 1 15. 9		
12 子どもをあくね園に通わせてよかったと思う。	5 1 74. 0	1 3 18. 8	5 7. 2	
12 コロナ禍にもかかわらず、園は子どもたちのために様々な工夫をし、保護者にも子どもの様子を知らせようとしている。	5 4 78. 3	1 5 21. 7		

考察（保護者アンケート結果から）

- おおまかには好ましいと評価している
特に
子どもの成長や職員の接遇、コロナ禍での保育活動等については高い評価です
- 保護者の感想として、職員の保護者対応についてやや不満を感じる保護者が若干みられる
保護者支援については園内研修で事例を出し合ったりいっしょに考えたりしてきた
全員が参加し語り合うことができた
- 子どもの中に登園を渋ってしまうことがあるとの意見もあった。どのような状況か分からないが、子ども自身が「友達先生と過ごすのが楽しい」と実感するような取り組みをしていきたいと思えます
- 「あくね園に通わせてよかったか」の問いに「あまり思わない」と5人（7. 2%、20人中1～2人）が答えている。
あくね園を選び子どもを入園させた保護者の期待に応えていないのかも知れません。また、できたら他の園に通わせたいと思っているかも知れません。
そこで「あまり思わない」と答える要因を探り、それに対する対策を考え改善を図りたいと考えています。